

## 関係団体の意見と対応

【平成 17 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。また、水深の深い地点の調査(底質も含む)についても実施して欲しい。</p>	<p>土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水時の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、土砂動態把握のため、平成 16 年以降、排砂期間前の 5 月にダム貯水池測量を新たに実施しており、さらに、出洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測を実施しているところである。</p> <p>また、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のヘリによる空撮、海域での採水、河口域でのセディメントトラップによる調査等を実施しているところであるが、一定の精度を持った土砂量及び拡散状況の把握には至っていない。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>来年度も、これらの既往調査に加え、海域での水深別 SS 濃度を把握するため、ADCP（音響ドップラー流速計）による調査などを実施し、更なる精度向上に向けて調査検討をして参りたい。</p> <p>平成18年1月17日に開催された第23回黒部川ダム排砂評価委員会において、今年度の連携排砂及び連携通砂実施に対して「水質、底質および生物の環境調査の結果から、洪水および連携排砂・通砂により、一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。しかし、今後は両ダム上流から流入する土砂量および流出する土砂量の精度高い把握、排砂・通砂方法の検討、ならびに生物相の他水域も含めた長期的な視点に立った考察が必要である。」との評価をいただいている。</p> <p>今後は、ダムの機能維持を図りつつ、更に排砂による下流河川及び海域への環境への影響をより小さくすると考えられる連携排砂及び連携通砂の方法について、排砂評価委員会及び関係機関等の意見も踏まえ検討して参りたい。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	猫又付近の土砂堆積対策については、土砂搬出の具体的方策を検討して欲しい。	<p>出し平ダム貯水池上流の猫又地点にある発電所放水口が出洪水により、土砂で埋まるため、発電機能の維持のため機械掘削を行っている。</p> <p>この堆積土砂の処理については、より環境への影響を小さくすることができるような方法を現在検討中である。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>内水面漁業関係団体</p>	<p>黒部川ダム排砂評価委員会において、一時的な環境変化があると評価され、さらに、長期的な環境の変化の可能性についても同委員会の中で示唆された。 したがって、直ちに、排砂は中止し、排砂に代わるダム堆積土砂の処理方法を検討し、実行されたい。</p> <p>黒部川内水面漁業協同組合としては、排砂絶対反対の立場ではあるが、仮に、来年度も排砂を強行するならば、少しでも環境への負荷を軽減する工夫をするとともに環境とりわけ魚族への影響を明らかにする努力をされたい。</p>	<p>平成18年1月17日に開催された第23回黒部川ダム排砂評価委員会における、今年度の連携排砂及び連携通砂実施に対する評価については、「水質、底質および生物の環境調査の結果から、洪水および連携排砂・通砂により、一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。 しかし、今後は両ダム上流から流入する土砂量および流出する土砂量の精度高い把握、排砂・通砂方法の検討、ならびに生物相の他水域も含めた長期的な視点に立った考察が必要である。」とされた。 この評価を踏まえ、土砂量の把握、排砂・通砂方法の検討及び長期的な視点に立った環境調査について、排砂評価委員会の指導をいただくとともに関係機関等のご意見も伺いながら検討して参りたい。</p> <p>連携排砂及び連携通砂の実施にあたっては、排砂評価委員会や関係機関等の意見を踏まえつつ、排砂による環境への影響がより小さくなるよう引き続き努力して参りたい。</p> <p>アユに関する調査としては、平成16年度より、アユの生息実態及び生息環境について詳細な調査を実施し、黒部川におけるアユの生態把握に努めているところである。 今後、排砂時における魚族への影響を把握するための調査については、引き続き専門家の意見を伺いつつ、実施して参りたい。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	排砂に関係する機関が意見を直接表明できるようにするため、黒部川土砂管理協議会に黒部川内水面漁業協同組合などの関係機関を参加させられたい。	<p>黒部川土砂管理協議会の開催にあたっては、これまでも内水面漁協をはじめ、海面漁業者、農業者等の関係団体に事前に土砂管理協議会資料等について説明の上意見を聞いており、それらの意見を土砂管理協議会に報告したうえで、審議、協議調整が図られている。</p> <p>排砂に関する団体は、内水面漁協、海面漁協、農業、その他多くの直接、間接の関係者の方々がおり、排砂評価委員会、土砂管理協議会を含め、現在の排砂の進め方については、長い時間をかけて多くの関係者の方々と話し合いをしながら作り上げてきたものであり、この進め方については、多くの関係者のご理解を得てきたものと考えている。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>出し平・宇奈月ダム of 連携排砂と通砂の考え方について、下流域の組合員にとっては全く同じ取水停止であり、説得力ある説明と対応を願いたい。</p> <p>平成17年度は、排砂と洪水調節・通砂と連続して合口用水の取水がストップし、組合員から大きな批判があった。連続する排砂と通砂は止めていただきたい。</p> <p>連携排砂実施期間見直しの検討材料とするために、現在の出し平・宇奈月ダム of 連携排砂実施期間以外に発生する自然洪水時の水質調査を実施すべきである。</p>	<p>これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、排砂評価委員会および土砂管理協議会開催時等機会あるごとに新聞折り込みや記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。</p> <p>今後とも、連携排砂、通砂や取水停止期間の考え方等についても、よりご理解いただけるよう地元自治体等とも相談しながらさらに適切な広報に努めて参りたい。</p> <p>通砂は排砂後の一定規模以上の出洪水発生時に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めないで通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の排砂量を減らし、環境に与える影響を低減させるとの観点から必要なものと考えている。</p> <p>平成17年度の連携排砂及び連携通砂の評価結果を踏まえ、連携排砂及び連携通砂の方法について検討することとしており、その検討の際には出洪水が連続し長期に及ぶ場合のダムへの土砂流入の状況も考慮し、連携排砂及び連携通砂に連続した連携通砂の方法についても検討することとしている。</p> <p>自然洪水時の水質調査については平成13年度以降、毎年5月から9月の間で概ね250m<sup>3</sup>/s以上の出洪水が発生した際に、可能な限り実施している。調査結果については、排砂評価委員会及び土砂管理協議会等に報告し、事務所ホームページに掲載しているところである。</p>

【平成17年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>公共性を考慮し出し平・宇奈月ダムの連携排砂については協力するが、農業用水路としては、4月から9月が灌漑期であり、農家にとって最も水の必要な期間であることを十分理解願いたい。</p> <p>用水路の堆積土砂について、10年近く調査を実施しているが、その報告だけであり、関西電力及び国土交通省の用水路の土砂堆積に関する見解が未だに示されていない。</p> <p>独自に土砂浚渫の事業に取り組む改良区もあり、その対応について検討されたい。</p>	<p>これまでも農業用水の取水停止時間を出来るだけ短くするために、平成15年度より排砂実施期間中の6月上旬のダム運用水位を低めに抑え、一連の排砂作業に係る時間を短縮し、用水の取水停止時間を短縮する対策を講じてきた。</p> <p>また、平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、夜間においても取水再開が出来るよう河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を計画した。</p> <p>今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討をして参りたい。</p> <p>実施機関では、排砂による影響調査として、用水路の5箇所において堆積調査を実施しており、過去の調査結果を見ると、いずれも、著しい堆積は見られなかった。</p> <p>現在調査を行っている箇所以外において排砂による影響と考えられる箇所があれば、農業関係団体と調整の上、調査地点の見直しについて検討して参りたい。</p>